

# 自治会から広がる、 地域一体となったまちづくり

京都府京都市山科区 安朱学区自治会連合会



安朱学区自治会連合会美化活動チーム

始まりは、J R山科駅前の不法駐輪でした。高齢化の進んだ安朱学区では、駅前の不法駐輪は住民の安全を脅かす大問題です。自治会として何とかしたい、しかし、それには継続した活動が必要だろう。地域の皆さんは協力してくれるのだろうか。不安と模索の中で始まった活動でしたが、活動期間は今年で11年目を迎え、自治会は声をかければ始めることができる、という自信を得ることができました。そして、活動はさらなる広がりを見せ、地域一体となったまちづくりを進めています。

## 不法駐輪一掃大作戦

### 【活動のきっかけ】

山科区は京都市の東に位置し、京都市の中

心部や大阪、神戸への通勤にも便利な生活のまちです。J R山科駅は滋賀県からの玄関口であり、また地下鉄山科駅、京阪山科駅との接続点でもあるため、利用人数が一日3万5000人、J R西日本管内20位の利用者の多い駅です。そのため、通勤通学に使用する自転車の不法駐輪が多発していました。

駅前には商店、信用金庫が並び、昼間はお年寄りが行き来します。車両の往来も多く安朱学区自治会連合会としては安全の観点から不法駐輪を排除することが必須の課題と考え、不法駐輪一掃大作戦として取り組むこととしました。

### 【参加を促す工夫】

平成23年4月から自治会役員を中心に出勤





駅前では不法駐輪の啓発活動とともに清掃活動も行う

の多い朝の時間帯に駅前では啓発活動を行うこととしましたが、どれだけの役員が呼びかけに応じてくれるのかわかりませんでした。そこで、1年分のシフト表をあらかじめ配布するとともに、現役世代の役員ができるだけ参加しやすくするために、活動は週1回月曜日の朝8時から長くても1時間程度に限定し、出勤途中に電車が来るまでの間だけ参加してもらおうなど、負担の少ない方法を工夫しました。啓発の方法も、積極的に声をかけると参加者の負担が大きくなることから、ユニフォームとしてたすきやベストを作成し、存在感を示すことで不法駐輪の抑制に努めます。

### 【取り組みの成果】

その結果、活動は現在で11年目を迎えます。今ではすっかり定着し、声をかけずとも自然に集まるようになりました。役員を離れた人もこの活動だけは、と参加をしてくれています。そのような、ゆっくりとした活動のため、不法駐輪もゆっくりとでも確実に減り、今ではほぼありません。お年寄りも安全に駅前を行き来することができるようになっています。最初は不法駐輪の啓発活動を目的としていましたが、途中から自然発生的に清掃が始まり、駅前の美観の向上にも寄与しています。今後も緩やかに、しかし息の長い活動を行っていくことを目標としています。

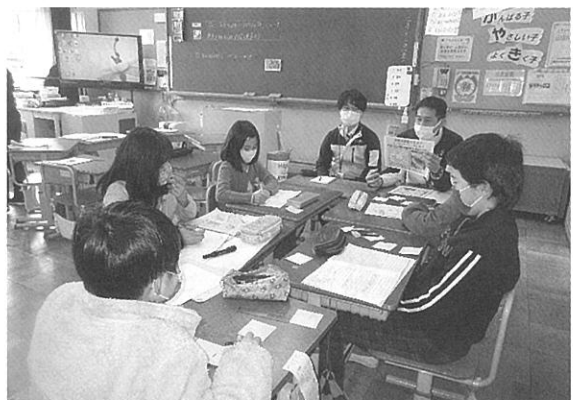
### 安朱子どもコンソーシアム

#### 【活動の内容】

不法駐輪一掃大作戦で自信を得た自治会は、さらなるまちづくりには多方面の協力、また未来を担う子どもたちへの働きかけが必要と考え、平成28年度から安朱小学校と連携し「安朱子どもコンソーシアム」を立ち上げ、山科区にある洛東高校や京都薬科大学、京都橘大学等に声をかけ、それぞれの生徒、学生またボランティアの方等に授業を行ってもらうこととしました。授業は自然観察、救命救急の学習、また、正しい薬の飲み方を実験形



地域のボランティアの方と、防災について学習



5年生が防災の授業で区役所職員に質問

式で学ぶ授業等多岐にわたります。

### 【取り組みの成果】

毎年様々な大学、高校等から外部講師陣を招き授業を行っていただいたことで、子どもたちのほうからも、その成果を発信していきたいという流れが生まれています。

平成28年には洛東高校の生徒による英会話の授業を行ったことで英語でのコミュニケーションにも興味が生まれ、平成30年から安朱小学校とマレーシアにあるプライ小学校との交流が始まりました。7月にはテレビ会議を行い、それぞれの国の文化を伝えるとともに、環境問題についても話し合いました。その後、安朱学区内で守っていききたい自然としてホタル、もみじ、桜を考え、今後は地域を流れる安祥寺川でホタル生息地を増やす活動が計画されています。

また、令和元年度には京都大学地球環境学堂から講師を招きSDGsについての講義が行われました。身近な環境が地域、国、世界とつながっていることを学び、2月には「食品をムダに捨てない」取り組みの一環としてフードドライブを開催しました。

### IoTで防災プロジェクト

#### 【活動のきっかけ】

安朱学区は自然豊かな地域であり、大雨の

時には土砂災害の恐れのある自然斜面が多くあります。自治会は高度情報を活用した防災情報を発信できないかと山科区役所に相談しました。土砂災害の予測精度を高めるためには土中水分量と降雨量の両方を観測することが必要ですが、行政が持つ降雨量のデータは1kmメッシュ程度であるため、現在頻発するスポット的なゲリラ豪雨に対応した防災情報を、住民の皆さんに提供することは難しくなっています。

そこで、平成30年度から京都大学防災研究所、京都高度技術研究所及び山科区役所と安朱自治会連合会が連携し、急傾斜地に水分量



ペットボトル雨量計作成のワークショップ

を計るセンサーを設置するとともに、住民の皆さんに声をかけペットボトル雨量計で計測することで、より詳細なデータを蓄積し防災情報に役立てることとしました。

### 【計測から避難への仕組み】

現在、20人の住民がワークショップで自作したペットボトルで自宅の雨量を計測し、インターネットで毎日報告をしています。また、斜面に設置されたセンサーの数値はリアルタイムでサーバに蓄積され、大雨の時にはそれらの数値を合わせて危険を察知する仕組みです。平成30年の台風24号では、設置されて間もなくでしたが、この計測値を含む様々な情報を基に地域主導で避難所を小学校に開設しました。現在は安朱北部防災ボランティア「つながり隊」が組織され、スマホのLINEを通じて避難所開設などの情報が伝えられる体制を作っています。

自治会は地域をまとめる組織ですが、自治会だけで解決する問題は多くありません。安朱学区自治会連合会では地域の皆さんをはじめ行政や小学校、高校、大学様々なつながりを大切にすることで多方面への広がりを持った活動をこれからも行っていきたいと考えています。

(安朱学区自治会連合会会長 福島直人)